

## 法学基礎教育研究班活動報告

加瀬 幸喜

法学基礎教育研究班の研究活動は、4年目を迎えた。新任の河野良継専任講師の参加を得て、われわれは本年も活発な研究活動を行った。本年度主に活動したメンバーは次の通りである。現代社会と法（講義）担当の荻原教授、現代社会と法（講義および演習）担当の白石教授、現代社会と法（演習）担当の木原教授、河野専任講師、柴田教授、山口助教授、山本助教授および加瀬である。具体的な活動は次の通りである。

- ① 5月11日に本年度第1回の研究会を開催し、本年度の研究課題について話し合った。研究課題は、昨年度に引き続き、学習意欲のない学生の指導方法とすることに決定した。欠席の多い怠学者については、昨年より早い時期に、保護者に対し警告文を発送することにした。教材では、民法の条文が現代化されたので、この対応策を話し合った。
- ② 6月23日に法律学科1年生を対象とした映画鑑賞会を開催した。上映した作品は、熊井啓監督「日本の黒い夏 冤罪(2000)」である。9割を超える1年生が参加した。学生には、感想文の提出を課した。
- ③ 6月29日に第2回研究会を開催し、授業運営上の問題点、前期試験の範囲などを話し合った。
- ④ 8月1日に第3回研究会を開催し、前期授業の総括をした。今年は、4月1日に、入学者全員を対象とするアチーブメント・テスト（英語および国語）を行い、その成績に基づきクラスを編成したが、その結果を話し合った。個々の学生について、アチーブメント・テストの成績と前期試験（全クラス統一問題）の成績とを比較したが、有意な相関関係は認められなかった。また、クラスごとの成績にも特段の較差がみられなかった。この調査は、今後も定点観測的に継続する予定である。

今年も、前期試験時に、昨年と同様の学生アンケートを行った。アンケートの結果は、昨年同様に、学習習慣が身に付いていない学生が3分の1程度いることを示した。
- ⑤ 8月2日および3日に合宿を行った。合宿では、今年から始まった成績別のクラス編成などについて話し合った。今年のクラス編成について、現代社会と法担当者の意見は、総じて昨年と変わらないといったものであったが、英語担当者は、今年の方が教え易いという意見であった。
- ⑥ 今年も、前期試験の成績優秀者の氏名を掲示し、成績不良者については、10月21日に再

試験を行った。

- ⑦ 10月1日に第4回研究会を開催した。研究会では、本学部非常勤講師（英語担当）杉本一郎氏を招き、授業運営・学生指導について話し合った。杉本氏は、他大学・予備校などで教えておられるので、その経験に基づく指導方法などをうかがうことができ有益であった。
- ⑧ 10月26日に第5回研究会を開催し、小テストのテーマ、後期授業の運営について話し合った。今年は、後期開始後に欠席が多くなった学生についても、保護者宛てに警告文を発送することとした。
- ⑨ 11月30日に第6回研究会を開催し、後期授業の運営、後期試験の範囲などについて話し合った。後期試験についても、全クラス統一問題とし、その成績優秀者の氏名は06年4月に掲示する予定である。
- ⑩ 3月16日および17日に第7回研究会を開催した。今年度授業の反省および来年度用の教材の開発を行った。
- ⑪ 3月23日および24日に合宿を行った。合宿では、英語・基礎演習の担当者と意見を交換し、少人数教育の運営方法を検討した。